

博士論文要約

立命館大学大学院人間科学研究科

人間科学専攻博士課程後期課程

ナカノ オサム

中野 修

1. 題名

芸術療法における絵本や音楽を媒介とした人と人との「つながり」の研究

2. 論文の要旨

本論文は教育現場での調査と実践、絵本や音楽をはじめとする芸術を媒介とした 6 つの事例を通して、人と人との「つながり」の観点から研究を行った論文である。本論文の「つながり」の定義は「人と人、自分自身や人と媒介物のであいにおける、安心感を伴う『場』での相互作用、相互交流のある関係」である。本論文の新しい知見から芸術、特に絵本や音楽を媒介とした実践での対象者の幅広い人間理解と、人と人との「つながり」の構築に役立てられ、芸術療法の新たな可能性と社会全体の幸福への寄与を願う論文である。

本論文の独自性や新奇性は、芸術、特に絵本や音楽を媒介にした人と人との「つながり」の構築を明らかにした以下の 5 つの点である。

- ①芸術を共に創造することでセラピストとクライアントに相互性が生まれ、その体験から両者に「つながり」が構築される。
- ②絵本や音楽の「場」では読み手や演奏者という表現者と、聞き手という表現者による即興的な行為によって「つながり」が構築される。
- ③「つながり」は過去、現在、未来の時間軸を含む。
- ④相乗効果で絵本の世界を音楽が後押しする。
- ⑤絵本や音楽を媒介とする実践に人と人との「つながり」という相互作用の視点を導入することで、セラピストクライアント間のほか、クライアントの背景にある幅広い人間理解に役立つ可能性が明らかになった。

3. 章構成

I 序論

1-1 絵本や音楽とのであいと学びや実践

1-1-1 絵本や音楽を用いた実践

- 1-1-2 筆者のバックボーンとセラピストとしてのアイデンティティ
- 1-2 本論文の着想に至った経緯
 - 1-2-1 人と人との「つながり」とは
 - 1-2-2 人には「つながり」が必要
 - 1-2-3 多様性への気づきと絵本
- 1-3 本論文の目的や構成と各事例の分析方法
 - 1-3-1 本論文の目的
 - 1-3-2 本論文の構成
 - 1-3-3 各事例の分析方法

II 芸術療法とは

- 2-1 芸術療法の定義
- 2-2 芸術療法の種類
 - 2-2-1 コラージュ療法とその先行研究
 - 2-2-2 描画療法とその先行研究
 - 2-2-3 箱庭療法とその先行研究
 - 2-2-4 読書療法とその先行研究
 - 2-2-5 複数の芸術療法を行った研究

III 音楽や絵本を用いた心理療法とは

- 3-1 音楽療法の概要と先行研究
 - 3-1-1 音楽療法とは
 - 3-1-2 音楽療法を用いた先行研究
- 3-2 絵本を用いた心理療法の概要と先行研究
 - 3-2-1 絵本を活用した心理療法とは
 - 3-2-2 絵本を活用した心理療法の先行研究

IV 教育領域における調査および実践

- 4-1 研究1：地方都市の小学校のLGBT校内研修会における実践・調査研究
 - 4-1-1 なぜLGBTがテーマなのか
 - 4-1-2 教育現場における問題
 - 4-1-3 SCが実施した研修会
 - 4-1-4 校内研修会の事前アンケートの結果
 - 4-1-5 LGBT教育に必要なもの

V 教育領域や福祉領域で芸術療法を用いた実践事例

5-1 研究2：スクールカウンセリングにおける芸術療法を用いた「あそび」と学校適応
—Cさんの「グルグル」と「ペタペタ」から生まれた物語—

5-1-1 転校生のCさんの事例

5-1-2 母親との面接

5-1-3 芸術療法を用いたCさんとの面接の経過

6-1 研究3：小学校にて絵本の読み聞かせを用いた事例

—絵本を通して多様性に触れる—

6-1-1 SCとして「多様性」を伝える

6-1-2 1冊の絵本とのであい

6-1-3 友人から教えてもらったこと

6-1-4 絵本を通して疑似体験をする

6-1-5 子どもたちの声

6-1-6 絵本を通して「つながる」

7-1 研究4：高齢者施設にて絵本の読み聞かせと音楽の合唱活動を用いた事例

7-1-1 福祉領域における絵本と音楽の活用

7-1-2 「絵本の読み聞かせと音楽の会」の実践

7-1-3 Kさんの物語

7-1-4 「絵本の読み聞かせと音楽の会」における相互作用

VI 東北地方太平洋沖地震後の復興地支援において絵本と音楽を活用した事例

8-1 東北地方太平洋沖地震後の復興地における学生ボランティアによる心理的サポートの報告

8-2 絵本と音楽のコラボレーションイベントとは

9-1 研究5：復興地における絵本と音楽のコラボレーションイベントの実践事例

9-1-1 復興地でのイベントに参加した対人援助者としてのボランティア体験

9-1-2 実施者からの声

9-1-3 復興地でのイベントによる「つながり」

9-1-4 絵本と音楽がもたらすもの

10-1 研究6：遠方からの復興地支援イベントにおける実施者の心理的プロセスの研究

10-1-1 遠方からの復興地支援イベント

10-1-2 絵本と音楽と人との「つながり」

10-1-3 イベント実施者の声

10-1-4 実施者同士の「つながり」と想い

10-1-5 イベント実施による「つながり」とその効果

VII 総合考察

- 11-1 研究の要約
- 11-2 芸術を媒介とした人と人との「つながり」
 - 11-2-1 芸術のもつ媒介性と「つながり」の構築
 - 11-2-2 絵本や音楽がもつ媒介性と「つながり」の構築
- 11-3 復興地の人たちと「つながる」
- 11-4 人と人とは共に媒介物をつくる
- 11-5 媒介物に命を吹き込む
- 11-6 絵本と音楽を媒介とする「場」における「粹」
- 11-7 「つながり」の維持と「つながり」が途絶えること
- 11-8 本論文の限界と課題
- 11-9 本論文の今後の展望

4. 各章要約

本論文はⅠからⅦで構成され、Ⅰでは本論文の着想の経緯や「つながり」の定義、目的と意義のほか、各研究で用いた分析方法である KJ 法（川喜田, 2017a, 2017b）と SCAT（Steps for Coding and Theorization）（大谷, 2011, 2019）に関して記した。Ⅱでは芸術療法の定義とその技法に関する概要と先行研究を記述した。Ⅲでは音楽療法、絵本を活用した心理療法の概要と先行研究を示し、Ⅳの研究 1 では、芸術を媒介することで教員同士が「つながれる」可能性を示した。Ⅴの研究 2 では、芸術という媒介物を共に創造し、安心感を得られる「場」で「つながり」が構築されることがわかった。研究 3 では、絵本の聞き手も読み手も表現者であり、絵本を媒介とした相互作用が起き、絵本の体験を通して児童が「今」や未来の自分や社会と「つながる」と考えられた。また、即興的に読むことで「スクールカウンセラー（表現者）—絵本—子どもたち（表現者）」の三者の「つながり」が構築された。研究 4 では絵本と音楽の媒介により、メンバーが自身の過去や未来と「つながる」ことや交流を促すことが示唆され、心理的・社会的な「つながり」の構築に役立つと考えられた。Ⅵでは増田（2018）とその仲間によるチャリティーイベント「絵本と音楽のコラボレーションイベント」に関する研究 5 と 6 を記した。研究 5 では、絵本と音楽のイベントの場を実施者と参加者が共に創造することで、心理的・社会的に人と人とは「つながれる」とわかった。研究 6 では絵本と音楽のイベントから、人と人とは心理的、社会的、物理的に「つながり」、「みんな」で復興地や被害者に想いを馳せ、災害の怖さを次の世代に「つなぐ」想いをひとつにするとわかった。Ⅶでは各事例の要約、芸術のもつ媒介性、絵本や音楽の臨床的要素などを論じた。そして、本論文の限界と課題ではさらなる知見の蓄積などが挙げられた。今後の展望は、人と人とのつながりを保つという社会的要請に対し、絵本や音楽の活用は有意義と考えられるため、様々な年齢層、背景をもつ方々と絵本や音楽を通して「つながり」、将来的には対人援助職の心理的ケアや絵本や音楽の治療的な働きを明らかにしたいと考える。

5. 主な引用文献・参考文献

川喜田 二郎 (2017a). 発想法——創造性開発のために——改版 中公新書

川喜田 二郎 (2017b). 続・発想法——KJ 法の展開と応用—— 中公新書

増田 梨花 (2018). 増補版 絵本を用いた臨床心理面接法に関する研究——不登校生徒に対する読み合わせ面接を通して—— 晃洋書房

大谷 尚 (2011). SCAT:Steps for coding and Theorization:明示の手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法 日本感性工学会論文誌 感性工学, 10 (3), 155-160.

大谷 尚 (2019). 質的研究の考え方——研究方法論から SCAT による分析まで—— 名古屋大学出版会